

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第4号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	
		決裁期日	平成23年11月28日
名 称	平成23年度 農業振興審議会		
日 時	平成23年11月28日（月） 13:30～15:00		
場 所	役場3階 第3会議室		
出席者	<p>町農業委員会 中瀬 実、ふらの農業協同組合副組合長 川上幸夫、          〃 上富支所女性部長 菊池梅乃、〃 酪農部会上富支部副部長 林 昭博、          農用地利用改善組合連絡協議会 瀬川信市、上富良野消費者協会会長 島瀬良一、          富良野土地改良区理事 瀬川英幸、富良野地区農業共済組合理事 岡和田 淳          (欠席委員 田村秀明、松藤良則)          向山町長、産業振興課 前田課長、辻主幹、北川主査</p>		
内 容	<p>審議会開催に先立ち、選任された委員に辞令書を交付(田村・松藤委員は所用により欠席)          向山町長挨拶のあと、前田課長から会長選任について委員に図ったところ、事務局提案の声あり会長に中瀬委員、副会長に川上委員を提案、出席委員の承認を得て選任した。          中瀬会長挨拶の後、議事に入る。</p> <p>議題</p> <p>1 平成23年度農業被害について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>別添資料に基づき事務局より説明。</li> <li>今年は7月から9月にかけて3度の集中豪雨に見舞われ、農作物被害や生育不良による減収は約7億、また農地等の土砂災害は約3700万に上り農家の経営を圧迫している。このため町では農地等の災害復旧にかかる費用の補助や経営支援資金の利子等の助成を行い農家の支援を図る。</li> <li>各委員より              「災害に対しこれだけの補助を行うのであれば、農業共済加入に向け町も支援を考えてほしい。掛け金が高く補助があれば加入も促進するのでは。」「全員加入なら補助もありだが、自ら加入しない人もいる中、町の補助はいかななものか。共済加入はあくまで個人の問題だが、近年の災害の大きさに必要性を実感し自己防衛意識も高まっていると思われ補助は不要と考える。JAは出荷手数料等で補填する考えであるが、JA出荷に出荷しない人は補填はない。」「共済加入率は十勝は100%加入、上富良</li> </ul>		

内 容	<p>野は H21 年度 55%、H22 年度 75%となった。米麦は当然加入であるが畑作の加入率が低い。これだけ災害があるので対策を講じなければならない。」</p> <p>2 農業政策の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 別添資料により事務局より説明。</li> <li>・ 農業関係では中山間地域直接支払制度が始まり、町内 12 地区で共同作業の取り組みが行われ、協議会としても直接払交付金や各種事業への助成を行い、農地保全事業で土砂溜等の設置を検討している。</li> <li>・ 土地改良関係では H24 年度から東中地区道営土地改良事業が中央・南地区より始まる。東中全地区で 110 億の事業のため、ほかの地区は道の予算により次年度以降開始する予定である。</li> <li>・ 各委員より       <p>「暗渠は 3 年ともたない工法のため、永久の財産となるよう多少事業費がかかってもよい物にしたい。」「事業費は事業参加者プール計算のため資材・工法は参加者全員の要望をまとめる必要あり。また国・道費が入るので、自由には選択できないが、近年は間隔など融通が利くようである。」</p> <p>「特産品(生産物)の販売促進はできないか。」「米の販促活動を中山間でやって行きたいが、集落協議会単独ではできない。共同活動でなければならないため生産者の参加が必要である。」「特産品を販売する場の取り組みを行ってほしい。」「農業の六次産業化を進めているので農業者自らの取り組みも考えていく必要がある。」</p> </li> </ul> <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会長より       <p>「前回 3 月の審議会で女性の参画について意見があった。北海道の農業委員会は 6 5 名の女性委員がいる(選挙 1 2 名、後は推薦による)。富良野沿線で女性を出そうという機運(環境)が必要で、今後検討会をつくる動きがある。」</p> </li> <li>・ 川上委員より       <p>「鹿柵の懇談会があり、防御の対策と金額を JA 組合員に周知、問題を把握してもらい、実行するか判断を町と協議していくのでよろしく願いしたい。」</p> </li> <li>・ 事務局より       <p>「現在の第 6 次振興計画は H21～25 年のため、今後は第 7 次振興計画の作成に取りかかっていくため、今任期の委員の皆さんには諮問等ご苦勞をおかけするがよろしく願いしたい。」</p> </li> </ul> <p>以上の意見交換の後、閉会となった。</p>
-----	---